

2017/09/23

長野大学 前川道博

蓼科高校／蓼科学 2017

地元から学ぶ信州学

保科百助アーカイブをつくる

(アーバンデータチャレンジ 2017 長野ブロック参加プロジェクト)

【趣旨】

来年 2018 年は蓼科実業補習学校（現蓼科高校）の初代校長を務めた教育者・保科百助（1868-1911、五無齋先生が愛称）の生誕 150 周年に当たる。これを記念し、本年度の長野大学蓼科高校連携講座「蓼科学 地元から学ぶ信州学」では、蓼科高校の生徒が中心となって、蓼科高校や立科町などが所有する文書類、関係者からのヒアリングデータなどのデジタルアーカイブ「保科百助記念アーカイブ」を構築する。このアーカイブを「信州デジタルコモンズ」に収録し広く全国に公開する。これを通して、保科百助を地元小中学生や地元住民に身近に感じてもらえるようにすると共に、全国で遍く誰もが知る事ができる存在に高める。

【信州デジタルコモンズのねらい】

信州（長野県）は、地理、歴史、文化、自然、産業などの面から多様に捉えることができる。地域の探求は、デジタル知識基盤化する現代においては、学際的に（学問分野を横断して）知識や概念を再編していくこと、地域の隔たりを超えて、各地に偏在する（偏って存在する）知を遍在する（遍く存在する）知に再編していくことが求められる。

そうした社会のデジタル知識基盤化に対応して「それぞれの信州学」を遍く支援する未来のデジタル化された図書館「信州デジタルコモンズ」を試行する取り組みが始まっている。将来的には、各地域の行政、図書館・博物館・公文書館・公民館などの施設、大学・学校・企業（産業界）・市民グループ・個人などが自律分散的に知識の源泉となるデータを生産・集積することが期待されているものである。

デジタルコモンズは、各地域、各施設・学校、個人などが主体的に地元のデジタルアーカイブを構築することにより自律分散型で構築されていくことを想定する。

【本アーカイブのねらい】

本講座は、そうした地域の一つの極となる蓼科高校の「蓼科学」が拠点となり、長野県の偉人・保科百助の資料などのデジタルアーカイブ化を通して、学校教育、鉱物研究、農業研究、図書館創設など多方面で活躍をした保科百助の人となりや業績を多面的に浮かび上がらせる。保科百助は生前、常識や偏見に捉われない「物の見方・考え方」をし、よい意味で「変人」であった。そのことは、現代においては、知識の再編や活用、主体的な学びという今日的課題に通じる面が大きい。地元信州とはいかなる地域であるのか（あったのか）を先人に学び、未来の地域を創り出していくことこそ、現代の私たちに求められるものである。

生徒たちは、学問の各分野に精通しているわけではない。保科百助の残した資料などを

ゼロから解き起こし、ここから学びを始める人たちである。保科百助に関する言説は数多くあっても、どんなにそれらを咀嚼しても受け売りの知識にしかならない。本講座では、資料（エビデンス）や生な社会と対峙しながら、自分たちがそこから関心を引き出し、知識形成や地域理解につなげていく主体的な学び（アクティブラーニング）を支援するものとする。「伝授された知識の咀嚼」ではなく、「自分たちが気づき、そこから編み出していく知識、探求方法の獲得」が知識基盤時代にふさわしい知識形成である。

本講座は、長野大学の学生が実習面、サービス開発の面でも一部サポートし、地元の保科百助研究会、立科町教育委員会からも資料提供、知識提供などの面での協力を得て進めていく。さらにアーカイブサービス環境構築の面では、eメディア研究会、カンプロの協力を得て進めていく。

地元根差したデジタルアーカイブの構築・公開は、地元の知識資源としての価値を持つものである。生徒たちがアーカイブづくりにコミットすることが主体的な学びのプロセスとなり、一つ一つの積み上げがアーカイブの充実、知識の共有につながっていく。生徒たちが始める「保科百助アーカイブ」が地域全体にその「知る楽しみの輪」「地域の誇りの醸成」を広げる気運になることを期待したい。

【本プロジェクトの概要】

アーバンデータチャレンジ 2017 長野ブロック参加プロジェクト

アーカイブ名：保科百助アーカイブ

公開先：信州デジタルコモンズ

指導：前川道博（企業情報学部教授）、市川正夫（環境ツーリズム学部教授）

協力：立科町教育委員会、保科百助研究会、信濃教育会（予定）、県立長野図書館（予定）

アーカイブの内容：

①保科百助の業績と人となりを伝える資料

公開可能な立科町などの所蔵資料をデジタル化しネットでの閲覧に供する。

教育者、鉱物学者、信濃図書館創設者などの側面を伝える概要資料

②蓼科高校所蔵資料

③立科町所蔵資料

④信濃教育会所蔵資料

⑤県立長野図書館所蔵資料

⑥関係者のヒアリング映像

⑦その他

実施計画：「蓼科学」（10/3～12/12、計 8 回）「地域 I」（10/27～12/8、計 5 回）の取り組み「地元から学ぶ信州学／信州デジタルコモンズ実習」全 13 回として実施する。この実習として「保科百助アーカイブ」を生徒たちが制作する。

日程：

長野大学連携講座 蓼科高校／蓼科学(火)・地域 I(金)

回	日付	曜	主担当	単元	単元内容	備考
1	10月3日	火	前川	地元から学ぶ信州学①	五無齋先生を探る①	

2	10月10日	火	前川	地元から学ぶ信州学②	五無齋先生を探る②	
3	10月17日	火	前川	地元から学ぶ信州学③	五無齋先生を探る③	
4	10月24日	火	前川	地元から学ぶ信州学④	五無齋先生を探る④話を聴く	地域で実習
5	10月27日	金	前川	信州デジタルコモンズ実習①	話のアーカイブをつくる	ゼミ生が支援
6	10月31日	火	前川	地元から学ぶ信州学⑤	資料調査と記録	
7	11月10日	金	前川	信州デジタルコモンズ実習②	資料調査と記録・実習	ゼミ生が支援
8	11月17日	金	前川	信州デジタルコモンズ実習③	資料調査と記録・実習	ゼミ生が支援
9	11月21日	火	前川	地元から学ぶ信州学⑥	ふり返り・まとめ	
10	11月24日	金	前川	信州デジタルコモンズ実習④	発表資料作成	ゼミ生が支援
11	12月5日	火	前川	地元から学ぶ信州学⑦	発表準備	
12	12月8日	金	前川	信州デジタルコモンズ実習⑤	発表資料作成	ゼミ生が支援
13	12月12日	火	前川	地元から学ぶ信州学⑧	発表会・保科百助記念アーカイブ披露	

<新しい信州学モデル授業としての授業視察開放>

長野県では、県立高校で「信州学」の取り組みを始めているが、参考にできる指導方法や実践事例が少ないのが現状である。蓼科高校は、「信州学」の実施に先駆け、「信州学」のモデル的授業実践となる地域科目「蓼科学」に取り組んできた実績がある。平成27年度からは、生徒が主体となり、地元立科町を主体的、実践的に学ぶアクティブラーニング型の授業「地元から学ぶ信州学『立科町探険隊』」を長野大学との連携により実施してきた。平成29年度は、アクティブラーニング型の授業「地元から学ぶ信州学／保科百助アーカイブをつくる」を実践する。従来、地域学習は、地域の歴史などに詳しい知識の先達の講義を聴く形態のものが主であったが、本授業では、生徒が地域資源でもある保科百助の資料等をデジタルアーカイブ化しながら、その作業を通じて保科百助の業績や地元の探求を進め、そこで作成されるデジタル資料を小中学校や生涯学習などの教材としても提供するものである。地域史などに精通する方々に講師を頼るのではなく、これから信州学を始動する教員にも、その指導の実践が可能なアクティブラーニングモデルとして授業がデザインされている点に最大の特色がある。

当該実践は、立科町／蓼科高校をフィールド／拠点として実施するものであるが、県内の各地域、各高校で各地域、各高校の特性に応じた「信州学」の指導案作成のモデル的实践となるものである。その目的から、県内高校の教員にも授業実践が視察研修できるよう、授業を公開する。

また、生徒の学習成果となる「保科百助アーカイブ」は、12/12に実施される最終発表会で同時に披露する計画である。学校での学習成果が「見える化」され、インターネットに公開されて広く地域学習のグッドプラクティスとなることを目指す。